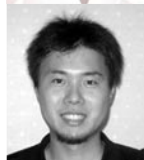


がまごおり

若者サポーターステーション



鈴木康生
☎ 67♦3201

ニートって言うってもね②

ニートと呼ばれる若者。ニートというのは単なる枠であって、本人の資質ではありません。しかし、ニートと言われて傷つく人がいるのは事実です。周りの人は「将来はどうするのか?」とか、「今のままでいいのか?」などと言います。良くないのは

分かっていていられるけれど、現実には仕事がない、もしくは心が不安定なため本人が働けない状態でしょうしよもない…。

一例にすぎないと思います。が、周りの人が本人を思う気持ち、逆に本人の不安・プレッシャーを強くしてしまうという事もあります。ですから、周りの人は本人の動きをじっくり待

つ事も大切だと思います。自分で決めて行動できるようになるまで待てばいいと思います。しかし、声をかけてあげることが必要だと思っています。

僕が働いていなかったいわゆるニート時代に、こんな言葉をかけられました。『ニートに金なし女なし』。友人からの言葉でしたが、ちよつとショックでした。しかし的を射た発言でした。当時、働けない環境にあった僕は(と自分で勝手に決めつけていただけかもしれないが)、どうしようもないじゃないかと

思いましたが、と同時に現実を直視することができました。

同じ言葉を見知らぬ人に言われたら反発したでしょう。また、距離が近い親に言われても反発したと思います。適度な距離感にある友人の発言だからこそ、彼の言葉を素直に受け入れることができ、その後、行動に移すことができたのだと思います。

もちろん、これは人によつて違ふと思いますが、自己の現実をどう受け止める事ができるようになるかがカギになることは確かです。



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎ 68♦2059

「気」が必要

現在、私は非常に機嫌が悪い。というのは先日、名古屋の大きな観賞魚店でアマゾン河に住む扁平顔の怪ナマズ・パカモンを破格の値段で手に入れたからです。この魚は以前から欲しかったのですが、高くて水族館でも買えなかつた魚です。ちな

みにパカモンとは現地で「つぶれた」という意味。このつぶれたとぼけ顔がなんとも言えないくらいかわいいのです。

多くの飼育者は貴重な魚や面白い魚が入ると、しばらく水槽の前で魚に「気」を送ります。私は「念力」や「オーラ」、「靈感」といったものは信じていないのですが、魚の飼育に関しての飼

育者の「気」というものは信じています。

経験上、気を注がなかつた魚は、いとも簡単に病気になるたり、あくる朝に死んで浮いていたりということがよくあります。これを気というか、きちんとした管理や愛情というかは微妙なところですが、飼育する魚というのはそのほとんどが飼いはじめは小さくて弱々しいため、水槽の中に入った魚の様子を見ながら、「元気に大きくなれよ」、「いっぱいエサを食べろよ」、「これからよろしくな」などのさま

ざまな気持ちを含めて気を注ぐのは大切な行為なのです。

しかし、そんな魚が自分のミスで水槽にフタをするのを忘れて飛び出し、床に横たわって死んでいたりすると、その光景を見た飼育者は足もとから崩れ落ち、数日は灰人になってしまいます。また、同居していた先住の魚に食べられてしまつたりすると、今度は飼育者が誰かに気を注いでもらわないと立ち直れない心情になります。